

令和8年度入学生対象

令和8年3月現在

別記様式2

副専攻プログラム説明書

開設学部（学科）名〔 教育学部（第三類） 〕

プログラムの名称	(和文) 日本語・日本文化教育学副専攻プログラム (英文) Teaching Japanese as a Second Language
1. 概要	日本語・日本文化教育学副専攻プログラムでは、日本語教育の基礎を学ぶ機会を提供し、学際的視野から国際社会に貢献出来る人材を養成する。本プログラムでは、日本社会や国際社会で求められる日本語教育人材に必要な基礎的な知識を身につけることができる。
2. 到達目標	本プログラムは、以下の2点の達成をめざす。 1) 日本語教育に関連した基本的な認識を形成すること。 2) 国際的視野および学際的思考の基礎を修得すること。
3. 登録時期	プログラム登録時期は、履修開始前（事前登録）のみとする。履修開始時期は、2年次である。
4. 登録要件	登録要件は、特にない。
5. 受入上限数	受入上限数は10名である。
6. 授業科目	※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。 ※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。 ※履修上の注意 14単位を超えて専門基礎科目を修得した場合の単位数は、専門科目の単位数として認める。
7. 修了要件	「6. 授業科目」に示す授業科目のうち、24単位以上を修得すること。 標準的な履修過程は、以下の通りである。 2年次では、専門基礎科目（「日本語教育課程論」「言語学の理論と方法」等）の履修に加えて、専門科目（「日本語の表現と論理」等）を履修し、2年次終了時点で計10単位以上を修得する。3年次では、残りの専門基礎科目（「地域日本語教育」等）のほか、専門科目のうちの講義科目（「文化社会学」等）を履修し、3年次終了時点で累計20単位以上を修得する。4年次では、残りの専門基礎科目および専門科目を履修し、4年次終了時点で、累計24単位以上を修得する。
8. 責任体制	本プログラムの計画・実施・評価検討・対処は、教育学部の日本語・日本文化教育学プログラムを担当するスタッフ（本プログラム教員会）が行う。責任者は、日本語・日本文化教育学プログラム主任である。
9. 既修得単位等の認定単位数等	(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

【副専攻プログラム履修に関する注意事項】

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

別表

日本語・日本文化教育学副専攻プログラム 履修表

科目区分	授業科目	開設 単 位 数	履修セメスター						要 修 得 単 位 数	開 設 学 部	備 考
			3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専門 基 礎 科 目	日本語教育学基礎論	2	○						14	教育 学 部	主専攻プログラムでは1セメ
	言語学の理論と方法	2		○							主専攻プログラムでは2セメ
	日本語教育課程論	2		○							主専攻プログラムでは2セメ
	現代文化論	2	○								
	異文化接触と文化学習	2	○								
	社会言語学	2	○								
	日本語文字・表記研究	2		○							
	第二言語習得と指導	2		○							
	年少者日本語教育	2		○							
	言語教育と社会	2		○							
専門 科 目	日本語の構造	2		○					10	教育 学 部	主専攻プログラムでは2セメ
	日本語教授法研究	2	○								
	日本語の語彙と意味	2	○								
	言語の比較と対照研究	2	○								
	日本語の表現と論理	2	○								
	日本文学と文化	2	○								
	日本語の音声と発音	2		○							
	日本語教育と文法	2		○							
	近代日本文学史	2		○							
	Second and Foreign Language Teaching Method	2			○						
	地域日本語教育	2			○						
文化社会学	2			○							
合計								24			

〈履修上の注意〉

- 履修セメスターの○印は標準履修セメスター
- 専門基礎科目の修得単位数が14単位を越えた場合は、超過した単位数を専門科目の単位数として認める。